

第2章 道路特定事業の整備方針

2.1 生活関連経路

旅客施設を含む生活関連施設相互間を結ぶ道路のうち、特に重点的にバリアフリー化を図るべき「生活関連経路」を図2.1のように設定しました。

また、「生活関連経路」との連続性を確保し、一体的にバリアフリー化を図る必要がある道路を「その他経路」として設定しました。

図2.1 太秦地区のバリアフリー化事業を行う経路位置図



2.2 具体的なバリアフリー事業の方針

生活関連経路及びその他経路で、移動等円滑化整備ガイドラインを満たしていない箇所について、その対策案を表2.1に示します。

表2.1 対策案一覧及び対策手法の概要

対象箇所	対策案・対策手法						
2.2.1 横断歩道接続部等	<p>対策A：段差・勾配の改良</p> <table border="1" data-bbox="611 562 1418 831"> <tr> <td data-bbox="611 562 743 696">対策A1</td> <td data-bbox="743 562 1418 696"> <ul style="list-style-type: none"> 横断歩道と接続する部分に平坦部を確保する すりつけのための縦断勾配を5%(8%)以下にする 歩道と車道の段差が1cmとなる縁石を設置する </td> </tr> <tr> <td data-bbox="611 696 743 831">対策A2</td> <td data-bbox="743 696 1418 831"> <ul style="list-style-type: none"> 歩道の民地側に平坦部を確保する 車道へのすりつけ勾配を小さくするため、歩道と車道の境界には、表面に勾配のある特殊縁石を設置する </td> </tr> </table> <p>※対策A1を適用することが困難(現況の段差・勾配が大きい上、民地・車道の改良が困難)な場合には、対策A2を適用する</p>	対策A1	<ul style="list-style-type: none"> 横断歩道と接続する部分に平坦部を確保する すりつけのための縦断勾配を5%(8%)以下にする 歩道と車道の段差が1cmとなる縁石を設置する 	対策A2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の民地側に平坦部を確保する 車道へのすりつけ勾配を小さくするため、歩道と車道の境界には、表面に勾配のある特殊縁石を設置する 		
対策A1	<ul style="list-style-type: none"> 横断歩道と接続する部分に平坦部を確保する すりつけのための縦断勾配を5%(8%)以下にする 歩道と車道の段差が1cmとなる縁石を設置する 						
対策A2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の民地側に平坦部を確保する 車道へのすりつけ勾配を小さくするため、歩道と車道の境界には、表面に勾配のある特殊縁石を設置する 						
2.2.2 歩道一般部・車両乗入部等	<p>対策B：横断勾配の改良、段差・不陸の改良、波うち歩道の改良</p> <table border="1" data-bbox="611 1003 1418 1216"> <tr> <td data-bbox="611 1003 743 1055">対策B1</td> <td data-bbox="743 1003 1418 1055"> <ul style="list-style-type: none"> 横方向の勾配がきつい場所を緩やか(1%(2%)以下)にする </td> </tr> <tr> <td data-bbox="611 1055 743 1137">対策B2</td> <td data-bbox="743 1055 1418 1137"> <ul style="list-style-type: none"> 歩道内にある段差を平坦にする 歩道部の凸凹(舗装不陸、水路不陸等)を平坦にする </td> </tr> <tr> <td data-bbox="611 1137 743 1216">対策B3</td> <td data-bbox="743 1137 1418 1216"> <ul style="list-style-type: none"> 車両が乗入れる歩道の部分の民地側に平坦部を確保する(すりつけ横断勾配は15%以下) </td> </tr> </table> <p>※対策B1, B2は歩道の一般部で用いる。また、対策B3は車両が乗入れる歩道の部分で用いる</p>	対策B1	<ul style="list-style-type: none"> 横方向の勾配がきつい場所を緩やか(1%(2%)以下)にする 	対策B2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道内にある段差を平坦にする 歩道部の凸凹(舗装不陸、水路不陸等)を平坦にする 	対策B3	<ul style="list-style-type: none"> 車両が乗入れる歩道の部分の民地側に平坦部を確保する(すりつけ横断勾配は15%以下)
対策B1	<ul style="list-style-type: none"> 横方向の勾配がきつい場所を緩やか(1%(2%)以下)にする 						
対策B2	<ul style="list-style-type: none"> 歩道内にある段差を平坦にする 歩道部の凸凹(舗装不陸、水路不陸等)を平坦にする 						
対策B3	<ul style="list-style-type: none"> 車両が乗入れる歩道の部分の民地側に平坦部を確保する(すりつけ横断勾配は15%以下) 						
2.2.3 歩車道境界部	<p>対策C：誘導施設・安全施設等の設置及び改良</p> <table border="1" data-bbox="611 1382 1418 1480"> <tr> <td data-bbox="611 1382 743 1429">対策C1</td> <td data-bbox="743 1382 1418 1429"> <ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="611 1429 743 1480">対策C2</td> <td data-bbox="743 1429 1418 1480"> <ul style="list-style-type: none"> 安全施設(車両防護柵、横断防止柵等)の設置及び改良 </td> </tr> </table>	対策C1	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良 	対策C2	<ul style="list-style-type: none"> 安全施設(車両防護柵、横断防止柵等)の設置及び改良 		
対策C1	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良 						
対策C2	<ul style="list-style-type: none"> 安全施設(車両防護柵、横断防止柵等)の設置及び改良 						
2.2.4 歩道のない道路	対策D：歩行空間の明確化						
2.2.5 道路付属物等	対策E：側溝蓋・グレーチングの改良、縁石の改修						
2.2.6 歩道の拡幅、支障物の撤去及び移設	<p>対策F：歩道の拡幅、支障物の撤去及び移設</p> <table border="1" data-bbox="611 1794 1418 1892"> <tr> <td data-bbox="611 1794 743 1845">対策F1</td> <td data-bbox="743 1794 1418 1845"> <ul style="list-style-type: none"> 歩道拡幅の検討 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="611 1845 743 1892">対策F2</td> <td data-bbox="743 1845 1418 1892"> <ul style="list-style-type: none"> 支障物(電柱、街灯等)の撤去及び移設の検討 </td> </tr> </table>	対策F1	<ul style="list-style-type: none"> 歩道拡幅の検討 	対策F2	<ul style="list-style-type: none"> 支障物(電柱、街灯等)の撤去及び移設の検討 		
対策F1	<ul style="list-style-type: none"> 歩道拡幅の検討 						
対策F2	<ul style="list-style-type: none"> 支障物(電柱、街灯等)の撤去及び移設の検討 						
2.2.7 縦断勾配の改良	対策G：縦断勾配の改良						

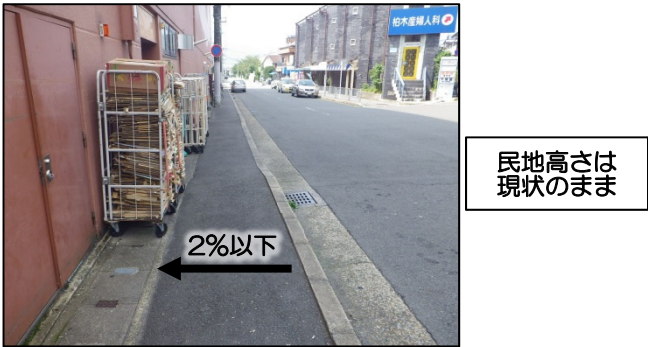
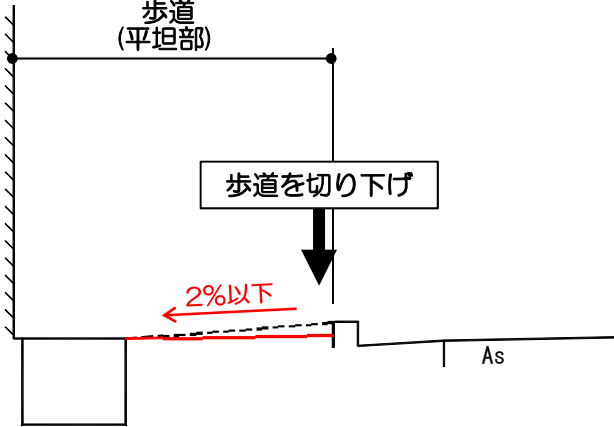
2. 2. 1 横断歩道接続部等におけるバリアフリー事業方針


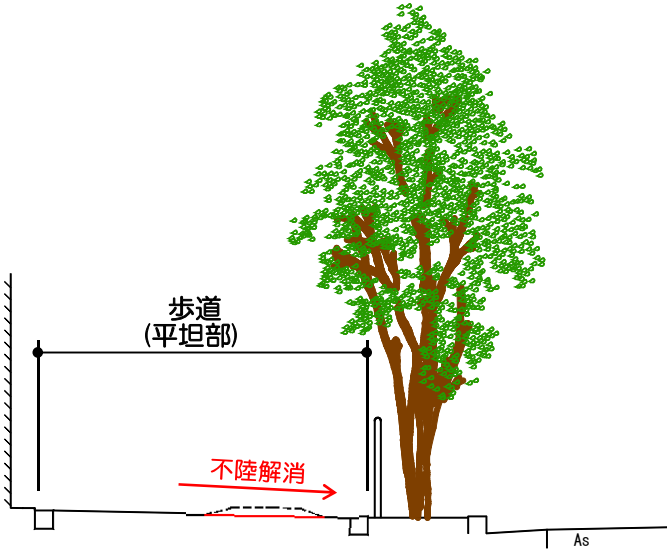
<p>対策案</p>	<p>対策 A1</p>
<p>箇所</p>	<p>横断歩道接続部等 市道 太秦緯 34 号線・市道 嵯峨野緯 70 号線，市道 太秦緯 244 号線 (生活関連経路①，⑦)</p>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 縦断勾配 5%(8%) 超 ※()は地形の状況その他特別な理由によりやむを得ない場合の特例値 横断勾配 1%(2%) 超 ※透水性舗装の場合は 1%，非透水性舗装の場合は 2% 段差 1cm 以上
<p>対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の改良(横断歩道接続部に平坦部を確保する。すりつけ勾配は 5%以下とする(歩車道境界は段差 1cm の縁石を用いる)
<p>イメージ</p>	<p>注) 本対策を行う際、民地との境界条件を考慮する必要がある</p>
<p>標準的な考え方</p>	<p>交差点縦断方向 (A-A') 断面概念図</p> <p>--- 現況 — 改良後</p> <p>拡大図 車道部 歩道部 段差 1cm 街渠板 縁石</p>

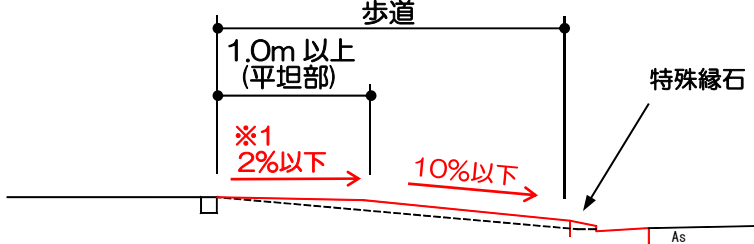
対策案	対策 A2
箇所	横断歩道接続部等 市道 太秦緯 244 号線（生活関連経路⑦）
課題	<ul style="list-style-type: none"> 縦断勾配 5%(8%) 超 ※()は地形の状況その他特別な理由によりやむを得ない場合の特例値 横断勾配 1%(2%) 超 ※透水性舗装の場合は 1%、非透水性舗装の場合は 2% 段差 1cm 以上
対策	<ul style="list-style-type: none"> 歩道の改良(横断歩道接続部に平坦部を確保できない場合は、平坦部を民地側に確保する) すりつけ勾配を小さくするため歩車道境界には下図の縁石 A, B を用いる
イメージ	<p>雨水ますの設置</p> <p>(横断歩道)</p> <p>(車道)</p> <p>雨水ますの設置</p> <p>(歩道)</p> <p>(民地)</p> <p>すりつけ勾配5% (やむを得ない場合はそれ以上可)</p> <p>すりつけ勾配5% (やむを得ない場合はそれ以上可)</p> <p>通行可能幅員1.0m以上確保</p> <p>縁石 A</p> <p>縁石 B</p> <p>交差点の歩車道境界の縁石について</p> <p>○一般部 縁石 A 敷設</p> <p>歩車道境界断面概念図</p> <p>車道部 歩道部</p> <p>街渠板</p> <p>3cm</p> <p>1cm</p> <p>○車いす通行部 (幅1.0m) 縁石 B 敷設</p> <p>歩車道境界断面概念図</p> <p>車道部 歩道部</p> <p>街渠板</p> <p>4cm</p>
標準的な考え方	<p>交差点縦断方向 (A - A') 断面概念図</p> <p>車道 (横断歩道部)</p> <p>歩車道境界</p> <p>歩道</p> <p>官民境界</p> <p>民地</p> <p>歩道すりつけ区間</p> <p>平坦部1.0m以上</p> <p>5.0% (やむを得ない場合はそれ以上可)</p> <p>1.0%</p> <p>A</p> <p>A'</p> <p>拡大図</p> <p>車道部</p> <p>歩道部</p> <p>段差なし</p> <p>街渠板</p> <p>縁石 B</p> <p>高低差4cm</p>

(注) 本対策は、対策 A1 を適応することが困難 (現況の段差・勾配が大きいうえ、民地・車道の改良が困難) な場合の改善策。



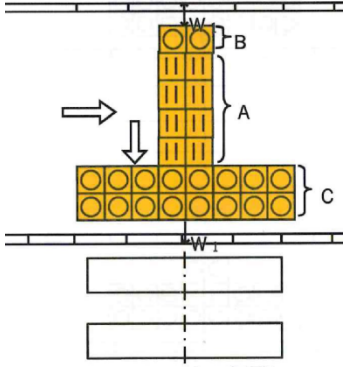
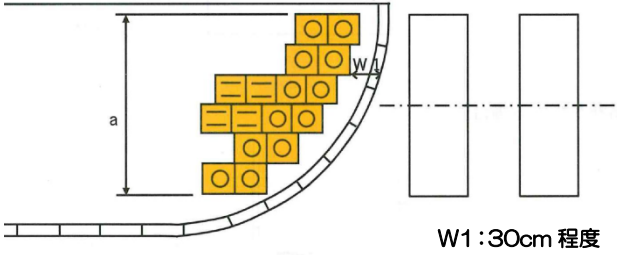
2. 2. 2 歩道一般部・車両乗入部等におけるバリアフリー事業方針

対策案	対策 B1
箇所	歩道一般部 市道 太秦緯 34 号線・市道 嵯峨野緯 70 号線，府道 二条停車場嵐山線 (生活関連経路①)(その他経路①)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配がきつい ・歩道が波うっていて歩きにくい
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配が急な箇所においては，歩道に平坦部(2%以下)を確保する
イメージ	
標準的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・横断勾配が急な箇所における歩道の改良 

対策案	対策 B2
箇所	<p style="text-align: center;">歩道一般部</p> <p style="text-align: center;">市道 太秦緯 34 号線・市道 嵯峨野緯 70 号線 市道 太秦緯 244 号線，府道 二条停車場嵐山線 (生活関連経路①，⑦) (その他経路①)</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 歩道に段差がある • 歩道が凸凹している
対策	<ul style="list-style-type: none"> • 歩道内の段差, 不陸を解消する
イメージ	
標準的な考え方	



対策案	対策 B3
箇所	<p style="text-align: center;">車両乗入部</p> <p style="text-align: center;">市道 太秦緯 34 号線・市道 嵯峨野緯 70 号線，市道 太秦緯 244 号線 主要市道 鹿ヶ谷嵐山線（生活関連経路①，⑦，⑩）</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> • 横断勾配がきつい • 平坦部がない
対策	<ul style="list-style-type: none"> • 横断勾配がきつい箇所，平坦部がない箇所において，歩道の民地側（車道側）に平坦部（透水性舗装の場合 1%，非透水性舗装の場合 2%）を 1.0m 以上確保する • すりつけ勾配は 15%以下とする
イメージ	
標準的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> • 横断勾配が急な箇所における歩道の改良  <ul style="list-style-type: none"> • 特殊縁石を用いて横断勾配が急な箇所における歩道の改良  <p style="text-align: right;">※1 透水性舗装の場合 1%，非透水性舗装の場合 2%</p>

2. 2. 3 歩車道境界部におけるバリアフリー事業方針

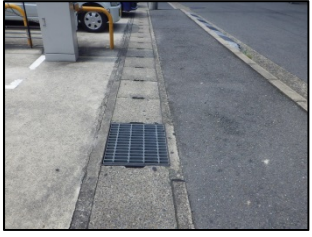


対策案	対策 C1
箇所	横断歩道接続部，歩道巻き込み部等 市道 太秦緯 244 号線，府道 二条停車場嵐山線 (生活関連経路⑦)(その他経路①)
課題	・歩車道境界の識別
対策	・視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良(JIS 規格化や配置変更など)
イメージ	<p>・視覚障害者誘導用ブロックの設置及び改良</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  ➔  </div> <p style="text-align: center;">現況写真 改良イメージ(JIS 規格化)</p>
標準的な考え方	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【横断歩道口の設置例】</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>【歩道巻き込み部誘導ブロック設置の標準図】</p>  <p>W1 : 30cm 程度</p> </div> </div> <p>注) 横断歩道の有無に関わらず歩道巻き込み部には視覚障害者誘導用ブロックを設置する。</p>

対策案	対策 C2
箇所	歩道一般部 市道 太秦緯 24 号線（生活関連経路㊸）
課題	・横断防止柵等が曲がっている
対策	・横断防止柵等を適切な位置に配置及び改良する
現況	<ul style="list-style-type: none"> ・横断防止柵等の設置及び改良 

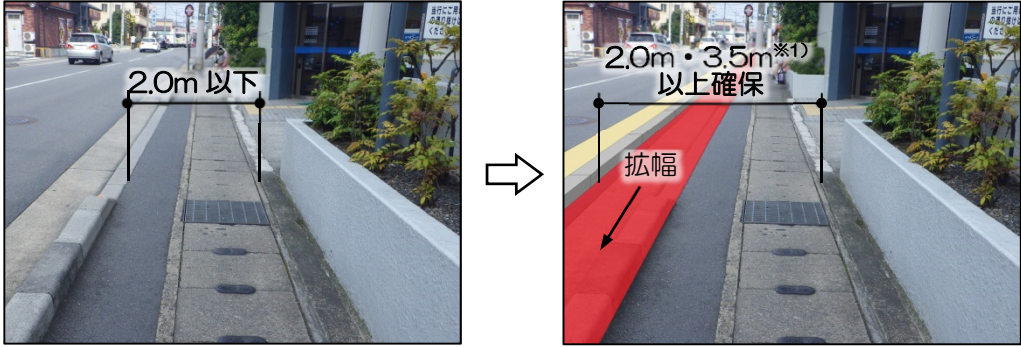
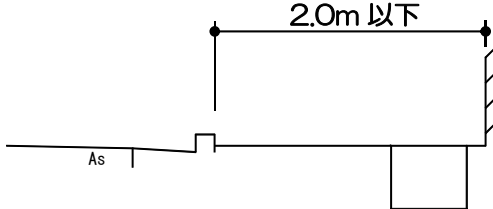
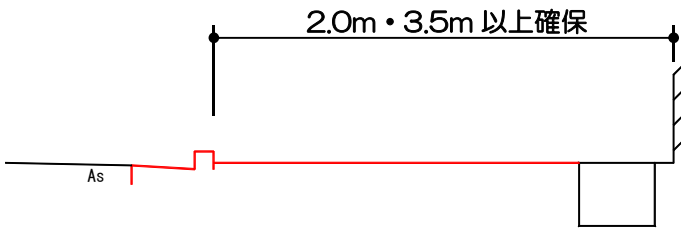
2. 2. 4 歩道のない道路におけるバリアフリー事業方針

対策案	対策 D
箇所	市道 太秦緯 34 号線・市道 嵯峨野緯 70 号線，府道 二条停車場嵐山線 市道 太秦経 109 号線，市道 太秦経 134 号線，市道 太秦緯 24 号線 市道 常磐緯 72 号線 (生活関連経路①，②，③，⑤，⑥，⑧)(その他経路③)
課題	<ul style="list-style-type: none"> 歩道がない 歩行者の通行スペースが明確でない
対策	<ul style="list-style-type: none"> 歩行空間の明確化
イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 路面標示を移動及び設置する 路側帯等にカラー舗装等を施し，歩行空間の明確化を図る <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="margin: 0 20px; font-size: 2em;">➔</div>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 現況写真 路側帯のカラー化 </div>

2. 2. 5 道路付属物等におけるバリアフリー事業方針


対策案	対策 E
箇所	<p>市道 太秦緯 34 号線・市道 嵯峨野緯 70 号線，府道 二条停車場嵐山線 市道 太秦経 109 号線，市道 太秦緯 203 号線・市道 太秦経 126 号線 市道 太秦経 109 号線，市道 太秦経 134 号線，市道 太秦緯 244 号線 市道 太秦緯 24 号線，主要市道 鹿ヶ谷嵐山線，府道 二条停車場嵐山線 市道 常磐緯 72 号線 (生活関連経路①，②，③，④，⑤，⑥，⑦，⑧，⑩)(その他経路①，③)</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> 側溝蓋がガタついている 歩行者通行部のグレーチングの網目が粗い 縁石が老朽化している
対策	<ul style="list-style-type: none"> 側溝蓋の改良及び暗渠化 細目のグレーチング等へ改良 縁石の改良
イメージ	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>側溝蓋改良 ⇒</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>細目グレーチング へ改良 ⇒</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>縁石改良 ⇒</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 現況写真 改良イメージ </div>

2. 2. 6 歩道の拡幅, 支障物の撤去及び移設におけるバリアフリー事業方針

対策案	対策 F1
箇所	歩道一般部, 車両乗入部等 府道 二条停車場嵐山線 (その他経路①)
課題	・歩道が狭い
対策	・歩道の有効幅員 (2.0m・3.5m ^{※1}) を確保
イメージ	 <p>現況写真</p> <p>改良イメージ</p> <p>※1) 歩行者交通量 1,000 人/日以上の場合 ただし, 地形上やむを得ない場合を除く</p>
標準的な考え方	<p>【現況】</p>  <p>【改良後】</p> 

対策案	対策 F2
箇所	歩道一般部，車両乗入部等 市道 太秦緯 34 号線・市道 嵯峨野緯 70 号線，府道 二条停車場嵐山線 市道 太秦緯 203 号線・市道 太秦経 126 号線，市道 太秦経 109 号線 市道 太秦経 134 号線，市道 太秦緯 24 号線，府道 二条停車場嵐山線 市道 常盤緯 72 号線 (生活関連経路①，②，④，⑤，⑥，⑧)(その他経路①，③)
課題	・電柱や街灯等が通行の支障となっている
対策	・支障物（電柱，街灯等）の撤去及び移設の検討
現況	  <p>生活関連経路①の歩道</p>

2. 2. 7 縦断勾配の改良におけるバリアフリー事業方針

対策案	対策 G
箇所	市道 太秦緯 244 号線（生活関連経路⑦）
課題	・縦断勾配がきつい
対策	・縦断勾配緩和の検討(縦断勾配 5%(8%)以下とする)
現況	 <p>現況写真</p>

2. 3 整備目標年次

表2. 2 道路特定事業の概要

経路	路線	事業内容	目標年次							
			H25	26	27	28	29	30	31	32 ~
生活関連経路①	一般市道 太秦緯 34 号線 一般市道 嵯峨野緯 70 号線	段差・勾配の改善								
生活関連経路②	一般府道 二条停車場嵐山線 (三条通)	歩行空間の明確化								
生活関連経路③	一般市道 太秦経 109 号線									
生活関連経路④	一般市道 太秦緯 203 号線 一般市道 太秦経 126 号線									
生活関連経路⑤	一般市道 太秦経 109 号線									
生活関連経路⑥	一般市道 太秦経 134 号線									
生活関連経路⑦	一般市道 太秦緯 244 号線		段差・勾配の改善							
生活関連経路⑧	一般市道 太秦緯 24 号線	歩行空間の明確化								
生活関連経路⑩	主要市道 鹿ヶ谷嵐山線 (丸太町通 [南側歩道])	段差・勾配の改善								
その他経路①	一般府道 二条停車場嵐山線 (三条通)									
その他経路③	一般市道 常盤緯 72 号線	歩行空間の明確化								

但し、整備目標年次は、現時点での目標を示したものであり、今後の財政状況や事業の進捗状況により変更することがあります。